

審議会等会議録

審議会等の名称	令和4年度第1回山口市地域福祉推進協議会
開催日時	令和4年5月27日(金曜日)13:30~15:30
開催場所	かめ福 on place プリンスホール
公開・部分公開の区分	公開
出席者	草平委員、高野委員、長谷川委員、芳西委員、秋本委員、赤松委員、本城委員 井上委員、来栖委員、内田委員、尾中委員、平野委員、末永委員、國安委員 中村委員、田中委員、山根委員、大田委員、藤井委員
欠席者	米本委員、林委員、吉村委員、上村委員
事務局	【山口市】 藤井部長、荒瀬参事、中村課長、堀課長、守田課長、矢田部課長、石川副参事 末岡副参事、岡村主幹、栗畑主幹 【山口市社会福祉協議会】 江藤常務理事、角野事務局長、松村事務局次長、有富課長、中村課長、田中課長 佐藤課長、磯部主幹
議題	1 あいさつ (1)山口市 (2)山口市社会福祉協議会 2 新任委員の紹介 3 議事 (1)地域福祉計画・地域福祉活動計画報告(H30~R3)【現計画】 (2)地域福祉の現状等の把握について ①地域福祉アンケート調査結果に関する基本概要 ②次期計画策定(令和5年度~令和9年度)におけるヒアリングについて
内容	次第に基づき、次のとおり進められた。
1 あいさつ (1)山口市	健康福祉部長 藤井 英樹
(2)山口市社会福祉協議会	山口市社会福祉協議会常務理事 江藤 寛二
2 新任委員の紹介	【事務局】 それでは次第に沿って進めてまいります。まず初めに、新たに御就任いただきました委員を御紹介させていただきます。 山口市小学校校長会 代表 (上郷小学校校長)平野 幸世 様でございます。平野様、一言、お願いいたします。 【平野委員】 平野です。よろしくお願いいたします。
3 議事 (1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画報告(H30~R3)【現計画】	【草平会長】 皆さんこんにちは。会長の草平です。どうぞよろしくお願いいたします。これより座って、皆様方も、コロナ禍ということもありまして、議事の円滑な進行のため、事務局の説明、委員からの発言については、着席したままをお願いいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。 それでは、先ほど、次第の方ありましたが、今日、議事が2つであります。

(1)、(2)という形で、二つに予定されております。
最初の所です。地域福祉計画、地域福祉活動計画について、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局より説明

「地域福祉計画・地域福祉活動計画報告(H30～R3)」について
資料1「R3 実施報告、R4 実施予定」
資料2「実施状況報告(H30～R3)」～現行計画の振り返り
において、市より説明

質疑応答

【草平会長】

ただ今、平成30年度から、令和3年度までの現計画の活動指標及び取り組みについて、説明や振り返りがありました。ただ今の事務局の説明について。委員の皆様から、御質問や御意見、御助言等はありませんでしょうか。どうでしょうか。

【高野委員】

この間、新型コロナウイルスの影響がすごく大きくて、いろいろな活動が中止になったり延期になったりするということが続いております。例えば高齢者の交流、あるいは子育て世代の交流、障がい者の交流というところで、一つの例として取り上げたいのですが、高齢者の交流は比較的に、活動が戻るといえば言い過ぎかもしれませんが、活動の再開が行われているようですが、例えば障がい者の方たちの交流というのは、そもそもがふれあいレク大会など、交流事業に絞られているために、中止になってしまうと、それっきりになってしまうと、その代わりに何が必要であって、どういう点を障がい者の交流を交流事業の中で展開していくのかということ、改めて考えていかないといけないのではないかと感じました。ですので、今回の計画はこういう評価になるのかもしれませんが、次の計画策定の時に、障がい者の交流というのが、いったい何が求められているか、これは私ども秋山委員にお聞きの方がよいのかもかもしれませんが、でも、そういうことを考えていくことが必要なのではないかと思いました。よろしくお願いいたします。

【草平会長】

はい、ご意見いただきました。その他、皆様方、御質問や御意見とか、御提言等ありましたら、お願いしたいのですが、いかがでしょうか。どうぞ。

【藤井委員】

同じく27ページの障がい者の交流というのがあがっておりますが、障がい者というのは、障がい者団体というのは、山口市にあるとは思いますが、新しい人がどんどん入るというような状況ではないと思うのですよね。いくつか会があるとは思いますが、ほとんど僕の考え方でいうと、活動はまったくやっていない状況じゃないかと思うのですね。市の市民に対する障がい者の理解とかなんとか言っても、まったくほとんど進んでいない状況だと思います。それは、第1に4年前、山口市が、8月の盆明けに障がい者の雇用2.5%、まったく実施していなかった。2年に一回しか障がい者の募集をやっていなかった。36名中、34

名か36名中、17名は障がい者の手帳を持っていなかった状況があったと思いますが、庁舎を挙げて、障がい者に何ができるか考えようということで、ずっと4年間やってきたとは思いますが、僕はしょっちゅう山口市の市役所にそんなに行くわけではないですが、職員課の課長とじかに話しても、なかなか新しい職員が入らない。入らないという状況というのですかね。一緒に行政職として働く状況には山口市はなっていないのですよね、今、3階に授産施設のように障がい者を何人か集めて、新しい雇用率2.6%を達成しましたよというふうな状況をずっとやっているのですよ。これは障がい者を自治体が雇用するというような状況ということには、まったくなっていない。授産施設のようなことをやっているわけなのです。まず山口市が本気に障がい者を全国的に職安なんかで募集して、本当の障がい者の雇用率2.6%を達成するように、やるべきではないか。まず市役所がそういうことをやっていくべきではないかなと思うのですね。この中に障がい者団体の代表の方がおられるとは思いますが、そういうふうな活動を障がい者団体が全くやっていない。僕はこの4年間、ずっとやってきています。一障がい者として、団体には入っていませんが、山口市にいろいろなことを言いに行ったりとかというふうな活動をしています。その中で、障がい者団体自体の力が弱いというのもあるのではないかなと思っています。以上です。

【草平会長】

ただ今、障がい者の理解に対する問題についてご指摘いただきました。また、山口市の市役所の障がい者の雇用の問題というのが実際、非常に残念な報道がありまして、その後の進捗もどうかという、障がい者雇用ということに関して、数値は達成できているということも実態はどうだったろうかというところのお話でした。事務局、答えますでしょうか。特に、障がい福祉関係の問題ですけど。

【事務局】

先ほど、山口市の障がい者雇用率のお話について御説明させていただきました。ご存じのとおり、こちらの健康福祉部で、山口市自体の雇用率については担当部署が違いますので、なかなかお答えすることが難しいのですが、把握している状況についてお答えいたします。障がい者雇用率については、皆さんご存じのとおり達成の方はできている状況です。御指摘のとおり、障がい者の働く環境の場としていかがなものかというところは、今でも課題として市の中であるかと思いますが、障がい者の理解を深めるために研修等も毎年、職員の理解が深まるように、研修もしつつ環境を充実させていくようにしているところです。正規職員の採用についても、2年に1回ほど、採用試験を、障がい者の方対象にしております。今年、令和4年4月1日に1人ほど、採用があったとお聞きしております。以上です。

【草平会長】

その辺の所、ご意見があったらというところで、よろしいでしょうか。

【藤井委員】

今の事なのですが、本来の自治体の雇用の体制ではないということで、本来の障がい者が働く、行政職として働くというような、本来の姿を山口市はやっていないということです。2年に1回の募集ではなく、半年に1回くらいは募集をして、本来の姿の行政機関として、障がい者を雇用するというふうな体制を、本来の姿に戻すべきだと私は思っております。以上です。

【草平会長】

御意見を賜るといふことで、障がい者雇用について正規職員が、今年1名採用されたといふことです。私の教え子で、障がい者の院生ですが、卒業したその2年前に、1名正規職員として採用されたといふ事例もうかがっていますので、あの報道から若干、進み具合があったといふことで、それらはきちんと検証していかないとけないと思ひますし、この地域福祉計画そのものの課題でもありますが、障がい者の計画、並びに職員の人員配置の改革ですので、市役所全体の領域の中で、所管部長、所管部局もかなりまたがってくるかと思ひますので、共通の事については、事務局の方で、担当の人事並びに障がい福祉関係の御計画について、御連絡いただければと思ひます。そのほか、御意見等ありませんか。

【藤井委員】

一言だけ最後、言わせてもらえますか。山口市の方ばかりが悪いわけではないのですよね。本来、山口市の体制を議会で、どういふことかといふふうな質問をして、問いただす市議員が34名おりますが、福祉の事とかなんとかかんとか言いながら、まったく核心的なことを市役所の方に全く質問をしない。私は議会の傍聴したことがあります、まったく、ぼわっとした質問で、ぼわっとした答えしかやっていない。要するに市議員がまったく働いていないといふことです。以上です。

【草平会長】

はい、ご意見として、賜りたいと思ひます。そのほか、御意見等ありませんでしょうか。

【長谷川委員】

私の方からですが、まず一つはこの間、なかなか社会福祉の改正がされる中で、やらないといけないといふところがいくつか出てきている部分に関して、かなりこの計画で当初決めたことを進めてきていただいているといふところでは、山口市の地域福祉計画活動計画の実施状況としては、市の方としても社協の方にしても、かなり取り組みを進められているのだなといふことは、素晴らしいことだと思ひておりますので、その辺は継続をして進めていただければといふ部分があります。それを踏まえて、今回の計画の振り返りといふところでいきますと、また、今回の計画の中で、新たに入れた包括的相談支援体制の方が、なかなか全体計画といふよりは、やっぱり実施体制の方が進まなかったかと思ひます。今の時点では、一番最初の所の財源の確保の所ですね。その所の部分が唯一といふ形で、取組が進んでいないといふ状況があるといふところが見て取れるのですが、1法人、1市役所等で、研修会を行うといふところは、出来ないことはないと思ひますが、難しいといふ部分があるのかなと思ひます。積極的に外の研修会、会議等をやっているところがありますので、そういったところにもぜひ参加をしていただきながら、次の段階、次期計画の時に向けていただければいいのかなといふところでご提案です。私がちょうど今年の研修会を始めて、私の恩師と組んで、コミュニティソーシャルアップ・ファンディングという研修会を昨年度から始めました。今年度も第2回の研修会を行うといふ、この前日程を組んだばかりなのですが、昨年度、100名くらいの全国参加があったところですので、ぜひそういう研修会の方もあるといふところで、御参加の御検討をいただければ、そんなに悪い研修会ではないと思ひますので、そこから次につなげていただくといふことも含めて、ちょっと内部だけだと難しいのだろうと見受けられましたので、一度、そういう研修を活用していただきながら、次につなげていただくといふこともご検討いただければと思ひます。

【草平会長】

地域福祉の関りのファンドレイジングという非常に注目を浴びているところですが、地域福祉活動のためのファンドレイジングという形で、動きが、全国的に行われている、それに対する参加というところの呼びかけでした。そのほか、ご意見等ありませんでしょうか。

【草平会長】

ちょっと私の方から、この計画の指標の中で、それぞれの項目に関する指標として、これが代表する指標でいいのかどうなのか、次期計画によってですね、評価には非常にコンパクトでわかりやすく出ているのですが、この指標でいくと、例えばコミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーターの配置というのができましたというふうになっているのですが、生活支援コーディネーターがいかに、非常に難しい市民の活動を応援するような、引き出すような、専門職、せつかく配置された専門職がどういうふうな活動をしているのか、市民活動をしっかり応援しているのか、というところを評価できるような、量的というより、質的な評価ができるかとか、そういったのが次の形ではないかと思えます。それから福祉教育に関して、指定校というのがあって、行われているみたいですが、次期には、今後この計画というのは、市の財源としては行わないということなのでしょうか。その辺の所、お話しただければ、お願いします。

【事務局】

今の指定校の事について、ご回答させていただけたらと思います。平成 21 年の時に計画を策定されまして、平成 22 年から山口市内の小学校、中学校の学校に毎年、小学校が 4 校、中学校が 2 校という形で、指定をしてまいりました。それが 2 年間の指定期間として、しておりましたが、今年ですべての小学校、中学校の方の指定が終了します。それを踏まえて、来年以降、この指定校についてどのようにしていこうかというのが、次の計画の方に反映できたらということで、山口市の方と、話を進めさせていただき、また小学校、中学校の情報交換会をさせていただく際に、小学校、中学校の担当の先生、もしくは校長先生等からご意見をいただきまして、一緒に次期の計画に反映できたらというふうに考えております。資金の方につきましては、山口市の方で、今、種まきリーディング、というところで、一年間 3 万円ほど、補助金というか、助成金を出させていただいておりますが、そちらの方も併せて、検討していけたらというふうに思っております。以上です。

【草平会長】

こういった地域福祉の関りでは、地域共生社会が持つ、地域のいろいろな人、いろいろな方がいる中で、共に生きる社会を作っていくという形で考えておりますが、それについて教育の中で、御意見、どうぞお願いします。

【山根委員】

NPO 法人クロスロードの山根と申します。今、福祉教育の現場でというお話がありまして、指定校で、小学校、中学校の指定が終わるということで、令和 4 年の計画には高等学校、大学を対象にみたいなのが資料の 1 の 10 ページに書いてあるのですが、この中で、県立学校になるのですが、山口県立総合支援学校ですね、例えば山口南総合支援学校では、障がい者の一般枠で就職するお子さんがほとんどです。その生徒さんたちは今、山口南総合支援学校は、この 4 月からカリキュラム変更で、実践実務科というのが、産業科が編成を変えられて、実践実務科ということになりまして、ビルメンテナンスの所だったり、飲食の接客業だったり、そこに介護というのが表立ってカリキュラムとして入ってきました。なので、そういう山口南総合支援学校の生徒さんたちは、介護現場

に就職している子も何人もいますので、そういう学校へ出向かれる、種まきリーディングをされるときにも、支援される側として総合支援学校の生徒さんたちを見ているのではなくて、地域に繁栄できる総合支援学校の生徒さんたち、高等部にいますので、山口総合支援学校だったり、山口南総合支援学校に、ぜひ声をかけていただければと思います。

【草平会長】

情報提供いただきました。はい。中村委員さん、どうぞ。

【中村委員】

山口市の老人クラブ連合会の中村です。先ほど、先生がおっしゃった、生活支援コーディネーター配置7人ということで、行政、市、社協についてはこういう組織作りができています。しかしながら、下におろしていく、支えするというか、そういう組織体が出来ていない。それで、高齢者同士がどういふふう組織を作るか、支える側と支えられる側ということですね。いま、山口市全体、老人クラブ連合会においては、地域地域にそれを作ろうと、実際にいろいろな今年中には各地区でやろうということで、今、阿東と山口市と、モデル地区を作るべく、今メンバーがいます。しかしながら、先ほど話が出ましたように、コロナでいろいろな人間関係が遠のいていますので、そのあたりが非常に難しいわけですが、昨年度の老人クラブの行事においても、ほとんど計画通り実施させていただきましたので、お互いに支えあうという組織体については、山口市はできるだろうと考えております。各山口県の19市町を見ますと、こういう支えあいの組織ができていないのが、山口市だけと思っておりますので、実際にそれを作って、動かすべく、今年はぜひともやろうということで、ご報告を兼ねてお話をさせていただきました。

【草平会長】

老人クラブ活動の現況についてご報告を受けられました。そのほか、ご意見等はございますか。

【大田委員】

お伺いしたいのは、ヤングケアラーが今、法整備をされると聞いているのですが、現在の把握している限りで、大体どのくらい、お困りの方がおられるか、現状ですね。後、来年度から、そういった計画が中に入り込んでくるかお聞きしたいです。

【草平会長】

はい、いかがでしょうか。次年度以降の計画にも反映できるかということです。

【事務局】

大田委員さんのヤングケアラーのご意見、どうもありがとうございます。ヤングケアラーにつきましては、複雑な問題だと思っておりますので、現在、学校教育課と、こども未来部と健康福祉部といろいろな部署にまたがっていることから、今からいろいろ協議を進めてまいりまして、ヤングケアラーの問題について、解決に向けて検討していかねばいけないと考えているところでして、今どれくらいの人数がいるかとかの把握の方はこちらの方で把握しておりませんので、今年度からいろいろ協議をしていくようにしているところです。以上です。

<p>2 地域福祉の現状等の把握について</p>	<p>【大田委員】 ひとつ事例としてあげたいのですが、職員、職場にそういったヤングケアラーではないかというのを把握して、どうしても学校の方から連絡があった時に、ある程度情報提供をするのですが、学校の方は個人情報というのがあったりするのです。例えば、お子さんのことで、もしあれだったら情報提供しますよということで、学校の方へ連絡をしたりと、その子のことについて、職場の人間もすごく心配するのですが、手立てがないということと、高齢者側と学校の教育委員会とかということの、こういった形で動いていけばいいかということで、包括支援センターも活用はするのですが、そこから先のなかなか動きが見えなかったりしています。これはちょっと喫緊の課題で、全国的な流れにもなっているのです、まずは実態把握からしていただけるとありがたいかなと思います。</p>
	<p>【草平会長】 はい、新しい問題についてですね。そのほかご意見と、先ほど福祉教育の面で、一通り回って、また校長会等について、打診があるということですから、いかがでしょうか。2 巡目で、この学校の方はコミュニティスクールという形で、地域との連携を考えていますし、福祉の方も地域共生社会、同じ方向を向いていると思うのですが、次期計画についての、校長会のご意見もあるかと思いますが、委員としてのご意見というのはありますでしょうか。福祉教育に対するところに関して。</p>
	<p>【末永委員】 中学校長会代表末永です。先ほどありました、指定の分がすべて終了したということは、私たちも理解しているところですが、委員としての意見として、中学校長会としてではなく、委員としての意見ということで。現場の方では、やはり福祉教育とか障がい者にかかわる理解、そういったことについての教育は当然やらなくてはいけないし、やりたいということを非常に強く思っています。ただ、市社協さんとか、市の事業に乗っかるかどうかというのは、各学校現場の判断になってくると思うので、要はそうではないことを利用していく。例えば、自分の、私自身の経験から言うと、アイサポート運動とかもあると思うのです。そういったところで、県の方からの事業を利用して、そういった活動、教育を行う。ということも出てくるので、一概にこの指標で、市の指標とか、市社協さんの指標には表れていないかもしれないけれど、実際の所は福祉教育等は行っていると、しっかりやっているという状況だと思います。</p>
	<p>【平野委員】 小学校会学校長代表の平野です。小学校におきましても福祉教育にかかわることは、いずれかの学年の中で、カリキュラムとして設定している学校が多いと考えていますし、また必要であるというふうに思っています。指定校という形でなければできないのか、指定校でなくなったらしないのかといいますと、そうでなくても今必要ですから、取り組んでいるところではないかというふうには思います。指定校という取り組みの在り様につきましては、あればより良いのではないかと個人的には思いますが、校長会としての回答につきましては、お返事したいと思っております。</p>
	<p>【草平会長】 突然でどうもすいませんでした。また今後このことについては、組織の問題としてお話があるかと思いますが、ご検討の方、よろしく願いいたします。それでは、一番目の議題です、現計画の評価、取り組みについてよろしいでしょうか。では、続きまして、議題の2 です。地域福祉の現状等の把握について事務局から、説明をお願いいたします。</p>

事務局より説明

①地域福祉アンケート調査結果に関する基本概要
資料3で市から説明。

②次期計画策定(令和5年度～令和9年度)におけるヒアリングについて
資料4で市社協から説明

質疑応答

【草平会長】

はい、ただ今説明いただきましたが、皆様からご意見やご質問がありましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【藤井委員】

統計は4,000通くらい出されたということなのですが、回収率が非常に低い。前も申し上げましたが、41%とか、ほとんど市議員なんか、ああいうふうな選挙とほとんど変わらないくらいですよ。やっぱり市民の意識が全くできていないのが、41%なのだと思います。市民の意識の向上とかどういうふうなことを向上するとかということは、教育委員会の中の社会教育委員会というところがあると思います。その中で、委員というのは、ほとんど年配の人ばかりが集まって、2か月に1回会議をやっているそうですが、ほとんど、おしゃべり小屋みたいになっているのではないかと思うのですよね。委員も僕なんかでも、応募しても、まったく入れてくれないわけです。市民の意識の向上とかなんとかか言って、2か月に1回、そういうふうな集まりをやっても、何の意味もないわけです。それをやっぱり、その社会教育委員会の中をまず変えることによって、山口市が、どうしても調査をする目標というのがあると思いますので、アンケートの回収率を上げていくことがまず第1歩じゃないかと思います。この統計のやり方なのですが、裏の年齢層というのがありますよね。18歳から19歳とか何とかというのがある、これ回収した率しか載っていないので、18歳から19歳まで何通出してどれだけ回答率があったかというのを出示してもらえるとより一層、4,000通の中で、どういうふうな年齢層が返送していないかというのが分かると思います。アンケートに対してはそういうことです。以上です。

【草平会長】

まず、ご質問があった点の、抽出の方法とか、その辺の所を説明していただければと思います。

【事務局】

いろいろご意見ありがとうございます。今回の回収率が前回よりも下がっていたということで、地域福祉に関する市民の方の理解というのが余り高くないということ、40%ということはそういうことだろうと思うのですが、こちらについては、このアンケートについては、目的としては地域福祉の今のアンケートの調査ということで、どういった傾向にあるかということを図るものでありまして、40%という回収率については、郵送調査の回収率としては、分析としてはしっかりとした、回収率は低い数値ではないということを一言申し添えたいと思います。ご指摘がありました、それぞれの年齢層の返送率については、次回の時

にお示しさせていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【草平会長】

はい、資料を言いますと、資料3には人口構造、分布との誤差が少なくなるよう、いわゆる無作為抽出方法と言いますか、地区と年齢というのが大体縮図であるように、何割かその中で、4,000人を選んだと、統計的に無作為に選んだ中で、結果が若干高齢者の方が高いという形になっていると。出している数は市全体の人口構成を反映する形で出されたのですが、結果として実態、こういう調査の場合、高齢者の方が回収率が高いということが一般的に言われているようですが、そういった形で出てきたということで、実際の数字はまた次回の方で出していただくということでした。そのほか、ご意見等、ご質問等ありませんでしょうか。よろしいですかね。

今日は宿題がありまして、これまでの現計画の取り組みの評価について、資料が出ましたので、それを踏まえながら皆さん方の次期計画への意見を求められた、ヒアリングを求められたということで、お一人ずつ、ご意見をいただけなかったのですが、書面において、現計画において、こういったものを問題に、次期計画にはこういうことを加えてほしいと、そういうところのご意見をお願いしたいと思います。

また市民参加という形で、取る方法として、かつては部会を作ってそこで協議をするという形もありますが、皆さんお忙しいということもありますので、なかなかやりにくいところもありますので、書面によって意見を承るという形に今回変えておりますので、ご意見の方、よろしくお願いいたしますと思います。では、用意された議題がすべてですが、委員の皆さまからなにかご意見等はありませんでしょうか。よろしいですか。

<意見等なし>

ではご意見がなければ、本日の議事を終了させていただきます。皆様方、ご協力ありがとうございます。どうもありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

【事務局】

草平会長、どうもありがとうございました。

事務局から2点ほど、お知らせいたします。繰り返しになりますけれども、アンケートにつきましては、7月8日までに提出いただきますようお願いいたします。もう1点でございますが、次回会議につきましては、8月30日で日程を決めさせていただきます。午後からを予定しております、場所等の詳細につきましては、これから調整いたしますので、またご案内の方させていただけたと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に、閉会の御挨拶を藤井健康福祉部長が申し上げます。

【藤井部長】

皆さん、長時間にわたる御協議、大変ありがとうございました。会の冒頭で、資料の配布につきまして、不手際がございまして、貴重なお時間をとってしまいました、大変申し訳ありませんでした。

また、多くの貴重な御意見・御提言もたくさんいただきました。ありがとうございます。

これから、次期「地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定」ということで、い

	<p>ろいろな取組を検討してまいりたい考えております。また、さらに意見をお聞きするため、アンケート調査をお願いしております。お忙しいところ、申し上げありませんが、御協力をお願いいたします。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。お疲れさまでした。</p> <p>【事務局】 ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、地域福祉推進協議会を終了させていただきます。 大変お忙しい中、ありがとうございました。 お気をつけてお帰り下さい。</p>
会議資料	<p><u>会議資料</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議次第(本紙表面) ・席次表及び山口市地域福祉推進協議会委員名簿 ・計画策定スケジュール ・山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画アンケート ・山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画実施状況報告(令和3年度実施状況・令和4年度実施予定) ・山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画実施状況報告(H30～R3年度)～現行計画の振り返り～ ・地域福祉アンケート調査結果に関する基本概要 ・「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」次期計画策定(令和5年度～令和9年度)におけるヒアリングについて
問い合わせ先	<p>健康福祉部 地域福祉課 地域福祉担当 (TEL)083-934-2790 (FAX)083-934-5087 (E-mail)t-fukushi@city.yamaguchi.lg.jp</p>